

「エコシティたかつ」の推進に係るこれまでの主な取組

資料9

事業等	目的	主な取組内容	成果	課題
学校流域プロジェクト	学校を、将来を担う子どもたちが、身近な場所で自然や水循環の仕組み、さらには自然再生の過程を実感する場として、また、健全な水循環のもとに生きものの賑わいを再生し、支える地域のモデル基地として位置づけ、各種ビオトープや雨水利用施設などを整備し、学習活動・課外活動・地域との交流活動等に活用する。	<ul style="list-style-type: none"> 区内全小学校と中央支援学校にビオトープを整備し、ビオトープの整備状況を踏まえながら、環境学習支援を実施 小学校教職員を対象とした環境学習研修会を開催 区内小学校への雨水タンクの設置等により、学校における雨水の利活用を推進 「エコシティたかつ」推進フォーラムにて、学校ビオトープ交流会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校との良好な関係性を築きながら、区内小学校全校(15校)と中央支援学校にビオトープを整備することができ、取組を深化させていく基盤をつくることができた。 生物多様性に関する内容を中心とした環境学習支援を継続的に実施することができ、児童や教職員に対して「エコシティたかつ」の普及啓発を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校に対する環境学習支援について、「流域思考」や地球温暖化適応策に関する内容を充実させていく必要がある。 整備したビオトープを地域のモデル基地として活用するため、児童や教職員のみならず、地域への働きかけを行っていくことが必要である。
たかつの自然の賑わいづくり事業	専門家と一緒に、水や緑、生き物、植物の調査を行い、さまざまな活動を通じて、地球温暖化適応策・生物多様性保全への貢献を市民協働で行う。	<ul style="list-style-type: none"> ●たかつ水と緑の探検隊 <ul style="list-style-type: none"> 市立緑ヶ丘霊園において、生物の生育状況や保水力の状態の調査を行い、調査結果を踏まえて、外来植物の駆除作業や保水力向上の取組、湧水の整備による水辺の創出に向けた取組等を実施 ●たかつ生きもの探検隊 <ul style="list-style-type: none"> 専門家と一緒に緑ヶ丘霊園内の森を観察し、生きもの探しなどを行う小学生を対象としたイベントを平成27年度から実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「たかつ水と緑の探検隊」については、市立緑ヶ丘霊園の森をモデル地区とした継続的な取組により、生物多様性や保水力向上等の地球温暖化適応策に係る森の再生についての実践的な取組ができています。 「たかつ生きもの探検隊」については、親子で楽しみながら、生物多様性や地球温暖化適応策の考え方に触れられる機会を継続的に提供できています。 「たかつ水と緑の探検隊」、「たかつ生きもの探検隊」とともに、平成29年度実施時のアンケートでは、参加者の90%近くから「エコシティたかつへの理解が深まった」との回答が得られた。 緑ヶ丘霊園で発見された準希少植物であるエビネランの域外保全を株式会社富士通ゼネラル、NPO法人鶴見川流域ネットワーク、高津区役所の三者が連携し、富士通ゼネラル本社敷地内で実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「たかつ水と緑の探検隊」については、これまでの成果等を踏まえ、今後の方向性の検討が必要である。
橘地区の農的資源を活かしたまちづくりの推進	高津区、特に橘地区における地域資源を活用した地域レベルからの地元意識、ふるさと意識の醸成に寄与するとともに地域活性化に寄与する取り組みを、総合的かつ多面的に行うため、市民による「たちばな農のあるまちづくり」推進会議を設置し、協働で推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の魅力を再発見し、食と農を通じた区民の交流を促すとともに、地産池消を進め、地場産野菜を地元で食する機会を拡充する <ul style="list-style-type: none"> ファーマーズマーケット「高津さんの市」の開催 農産物の紹介販売を実施 地産池消農産物の直売所等を掲載した「たちばな農のあるまちづくり おさんぼマップ」を作成 ●農のある風景と暮らしを、次代に伝えるための活動を創出・拡大する <ul style="list-style-type: none"> 農業体験イベントやまち歩きイベントの開催 たちばな風景撮影ツアーとたちばな風景写真展の開催 ●食と農の交流拠点機能を整備し、拠点との連携を行う <ul style="list-style-type: none"> 地域交流拠点「メサ・グランデ」との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 「高津さんの市」では、実施当初から着実に来場者数を伸ばしており、地域のイベントとしてしっかり定着していることから、地産池消への理解を図るとともに、農家と区民の交流を促すことができた。 農業体験イベントでは、地場産野菜、地元農家と触れ合いながら「食」と「農」を体感して学ぶことで、都市農業の重要性への理解を図ることができた。 写真ツアー、写真展を市民参加により実施し、区の地域資源である「たちばな地区の農のある風景」の魅力を効果的に発信することができた。 区内の直売所マップに、地域の見どころや「たちばな農のあるまちづくり」の取り組みの紹介もまとめたPRパンフレット「おさんぼマップ」を市民協働で作成し、区内外で発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組みの認知度をより一層広げるため、新たな手法の導入を検討する必要がある。
区役所庁舎のエコシティホール化の推進	区役所庁舎を環境展示場「エコシティホール」として整備し、環境学習の場として活用するとともに、関連データの収集や情報発信を行いつつ、モデル事業者としての区役所の実践を示す。	<ul style="list-style-type: none"> 区役所を環境展示場として整備・屋上緑化、壁面緑化(緑のカーテン)、雨水利用、太陽光発電システム、遮熱塗装、階段ペイント、人感センサーLED、ビオトープ、光触媒、ペットボトルキャップベンチ等 エコシティホールツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所の率先した取組や地球温暖化防止活動推進センターとの連携により、エコシティホールツアーには累計400名以上の参加があり、「エコシティたかつ」の理念や環境意識の啓発を体験を通じて行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境対策のトレンドに対応し、より多くの区民に効果的な普及啓発を行うため、内容の充実を図っていく必要がある。

事業等	目的	主な取組内容	成果	課題
各種環境普及啓発活動の推進	区民の地球温暖化適応策や生物多様性保全に関する意識啓発を図るとともに、「エコシティたかつ」の取り組みに対する理解向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●「エコシティたかつ」推進フォーラム ・学校ビオトープ交流会、環境活動発表会、地球温暖化適応策に関する講演会等を実施 ●たかつエコシティツアー ・区内を中心として、地球温暖化適応策や生物多様性保全などのエコに関する取組を見学するツアーを開催 ●おうちビオトープ大作戦 ・身近なアクションの提案として、自宅等でビオトープを設ける意義や方法等を紹介する講習会を開催するとともに、FacebookやInstagram、地域情報紙にて取組の募集を行い、その内容の広報を行った。 ●株式会社丸井からのレジ袋削減に伴う寄付金の受納（寄付受納累計額：1,953,728円） ・マルイファミリー溝口（まるい食遊館）での買い物客がレジ袋を辞退した場合に、1人につき3円が高津区役所（「エコシティたかつ」推進事業）とNPO法人多摩川エコミュージアムへ寄付される（寄付先は買い物客が選択） ●JR武蔵溝ノ口駅デジタルサイネージにおける「エコシティたかつ」の広報の実施 ・平成29年度に「エコステ」となった武蔵溝ノ口駅に設置されているデジタルサイネージにて「エコシティたかつ」の広報画像を放映 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな普及啓発活動の実施により、地道ながらも着実に「エコシティたかつ」の理念や環境意識の啓発を行うことができた。特に、「エコシティたかつ」推進フォーラムでは、参加団体間の交流が生まれるとともに、参加した区内小学校児童の保護者に対しての啓発にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に取組を進めている一方で、平成28年度高津区区民ニーズ調査の結果を見ると、「エコシティたかつ」推進事業の認知度は極めて低く、効果的な普及啓発手法について検討を行い、多様な主体との連携等によりさらなる普及啓発の取組を行っていく必要がある。
「エコシティたかつ」推進のための体制づくり	「エコシティたかつ」の実現に向けて、様々な主体が参加し、主体間の連携やプロジェクト間の調整、市域全体との連携・調整、多様な媒体を活用した効果的な情報発信等を行う推進体制を構築する。	「エコシティたかつ」推進会議の定期的な開催	「エコシティたかつ」推進会議には、学識経験者や各種団体、民間事業者、公募の委員、行政関係者等が参加し、各委員（団体）同士の連携や「エコシティたかつ」の基本目標達成に向けた取組を推進するための安定的な体制を築くことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的には「エコシティたかつ」推進会議を市民と区役所の協働運営とすることも視野に、より多くの区民に「エコシティたかつ」の理念や目標等を共有し、取組に参加してもらうことや各主体間の連携・協働をより一層促進していく体制づくりが課題となっている。（行政×民間事業者、民間事業者×市民団体等）
小学校敷地丸ごと3D化プロジェクト	流域での自然の地形（大地のデコボコ）を前提とした水の流れや地球温暖化適応策を考える機会を区民に提供する。	「エコシティたかつ」推進会議委員である田中教授の研究室との協働により、橘小学校及び南原小学校を対象として、3次元スキャナーを用いたデータ計測を行い、その成果物を用いて、橘小学校及び南原小学校において出張授業を行った。	「学校流域プロジェクト」の次段階の取組として、小学校という子どもたちをはじめとした地域住民に身近な場所を3次元スキャナーで計測し、地球温暖化適応策について学び、考えるため素材（3Dデータ及び2,000分の1スケールの学校敷地周辺立体地形図）を作成することができた。また、3Dデータ等を用いて地球温暖化適応策の考え方を子どもたちに伝えることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちをはじめとしたより多くの人たちに、より効果的に地球温暖化適応策の考え方を伝えるため、より多くの場所・範囲で3Dデータを作成するとともに、3Dデータを用いて地球温暖化適応策の考え方を伝えていける人材の育成が必要である。
地図による地域環境資源の共有化の促進	多様な地域情報を入れたベースマップを作成し、地域の地形的な特性や環境資源を的確に把握し、施策展開のあり方を検討する際の基礎的データのひとつとして活用する。また、ベースマップを活用することにより、「エコシティたかつ」の推進に関わる多様な主体が意見交換を有効に進め、共通認識を持つことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・流域界や過去の浸水被害箇所を記載し、大地の高低差が視覚的に確認できる「高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）」を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）は区民等の関心を引きつけるものとなり、県立向の岡工業高校にて、川崎市が協力し、高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）を活用した授業（フィールドワーク）が実施されるなど、高津区流域地形地図（たかつ凸凹マップ）を活用し、「エコシティたかつ」の理念や地球温暖化適応策の考え方を区民等に分かりやすく伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マップ等の統合・情報の充実について検討する余地がある。



全体として、国や市の取組に先立ち、継続的に取組を進めたことにより確かな成果が出ており、「エコシティたかつ」の推進について着実に前進し、さらに発展させていくための基盤をつくることができた。また、国の気候変動の影響への適応計画や川崎市地球温暖化適応策基本方針が策定された中で、さらなる発展に向けて、「エコシティたかつ」の認知度向上と参加促進、各主体間の連携・協働のより一層の推進が求められる。